

直前東医歯大英語

【2 回目】



問題

解答

- (1) 1. (F) 2. (T) 3. (T) 4. (F) 5. (F)
6. (T) 7. (F) 8. (F) 9. (F) 10. (T)
11. (F) 12. (F) 13. (F) 14. (T) 15. (F)
16. (F) 17. (F) 18. (F) 19. (F) 20. (T)
21. (F) 22. (F) 23. (T) 24. (T)
- (2) A. Because the doctors told them that medicine had finally discovered wonder pills that would treat any illness, and people believed this story. [Because people believed their doctors who said antibiotics were wonder pills that would take care of any illness at all.] (22 words [20 words])
- B. Because the fever helps to burn up dead cells and restore the disposal process. [Because the fever incinerates waste materials in the form of cells and makes them leave your body.] (14 words [17 words])
- C. It is that the public as well as scientists tend to value individual parts of science and forget the wholeness within themselves. [That is our way of thinking that values scientifically-proved individual parts more than the entire picture about them.] (22 words [18 words])
- (3) 「全訳」の下線部①, ②, ③参照。
- (4) 第二次世界大戦以降, 抗生物質の有効性を人々は盲信し, また医師自身も感染症の第1選択薬が抗生物質であることを疑わなくなっている。しかし, 子供の中耳炎の治療法として安易に抗生物質を投与すべきでなく, リンパ液を循環させて直腸呼吸反射を正常化させればグリセリンの塗布だけで治癒するはずである。多くの医師はこの方法に疑念を抱いていたが, 筆者が手掛けた何百人という子供はこのやり方で回復した。また, 肺炎のような感染症でも直ちに抗生物質を投与して発熱を抑制してしまうと目論む医師が多いが, むしろ体の発熱という自然の流れに任せて老廃物を燃焼させてそれらを体から排除してやる方が必要と言える場合もある。つまり, 現在あらゆる要素へと還元してしまう科学研究を盲信する傾向が医師のみならず一般人にも存在するが, そのような個々の統計データに拘るのではなく, 常に背後に潜む全体像を意識していくことが必要なのだとということ。(396字)

解説

- (1) 1. 「薬の瓶が琥珀色(濃い茶色)に色付けされているのは, 何らかの抗生物質を含んでいるからだ。」
ℓ. 2 an amber plastic bottle は薬の瓶一般に言えることで, その薬の瓶の中に1つは抗生物質が含まれているはずだ, と述べているだけである。抗生物質と直接の因果関係はない。
2. 「筆者が言うには, 1年も経てば必ず, 少なくとも家族の1人が抗生物質を医師に処方されている。」

- ℓ. 4 when was the last time you went ～? より正しい。
3. 「医者は今や、何の躊躇もなく患者に薬を処方しているように思われる。」
ℓ. 6 These days doctors pass out drugs ～. より正しい。
4. 「結局のところ筆者は体がもつ自然の治癒力の存在をまったく信じていない。」
ℓ. 8 Though I believe in the ～に反する。また後半で筆者は解熱剤を与えるよりも発熱による自浄作用を信じているとしている。
5. 「筆者が初めて抗生物質を投与した時、患者の同意を得ていなかった。」
ℓ. 13 The patient agreed とある。
6. 「1940年代、少なくとも1つの蒸留酒製造所が、抗生物質製造に取り組んでいた。」
ℓ. 11 considering their manufacture の their = antibiotics である。considering としか書いていないが、程度の差はあれ製造に取り組んでいたとも言えよう。
7. 「筆者が初めて抗生物質を処方した患者は、その薬は精神的な影響のみを与え、病気自体は治らないと思っていた。」
ℓ. 14 the alternative was probably death とあるが、ここでの alternative は抗生物質を試さないことを意味する。抗生物質を飲んでも死ぬだけと思っていたとは書いていない。
8. 「実際、抗生物質はまったく効き目がなく、患者に対して、単に治癒力が動き始めると思わせる手助けをするだけである。」
筆者は抗生物質が効かないとどこにも書いていない。単に抗生物質が万能薬ではないと言っているだけである。
9. 「抗生物質はすべての病気に対する正しい答えではないけれども、その有効性を考えると、医師は初めに何らかの抗生物質を処方すべきだ。」
この文章では安易に抗生物質を処方することに対して懸念を表明している。中耳炎に対する筆者の処置や、発熱時の対応などを読むと抗生物質処方にも消極的であるとわかる。
10. 「抗生物質を全く使用しなくても、子供は耳の感染症から完全に回復する可能性がある。」
筆者は抗生物質を使用せず、リンパ液が全身に流れるようにした後、グリセリンを塗布するだけで治している。
11. 「子供の中耳炎は耳それ自体の問題ではなく出生に由来する問題であるから、『遺伝病』と呼ぶべきである。」
遺伝病という記述はないし、あくまで耳の感染症 (ear infection) であるとしている。
12. 「筆者は、リンパ液と抗生物質の助けを借りて、何百人もの子供を中耳炎から回復させた。」
antibiotics の助けは借りていない。
13. 「筆者によると、抗生物質は不必要な使用を防止できさえすれば、奇跡の薬になり得る。」
ℓ. 40 The problem with antibiotics isn't limited to their unnecessary use. に反する。

14. 「筆者によると、抗生物質は奇跡の薬と呼ばれたために、誤って人々から健康問題の心配を取り除いてしまった。」

ℓ. 40 Antibiotics are, I suspect, indirectly responsible ～から、正しい。

15. 「第二次世界大戦後、人々は、医師は以前ほど患者の健康に注意を払わなくなるだろうと信じた。」

ℓ. 44 People believed their doctors *and* stopped paying as much attention to their own welfare. の *and* を見落とさないこと。

16. 「体内の細菌が抗生物質に対する耐性を獲得しても、服用量は無限に増やせるのだから、問題ない。」

ℓ. 48 Eventually the antibiotics won't work. とある。

17. 「ある研究者は、抗生物質を動物で使用すると、身体の 70% により影響を与えたということだ。」

抗生物質の体内動態の 70% がわかっただけである。

18. 「筆者は、抗生物質は一時的にでさえ痛みを取り除くことがないので、肺炎には抗生物質を処方すべきでないと思った。」

ℓ. 61 the result is temporary relief に反する。

19. 「体温が華氏 103 度まで上昇していない限り、その熱は体に良いのだから医者に行くべきではない。」

医者に行くべきではないとまで言っていない。抗生物質使用を控えるべきとするだけである。

20. 「もし体から熱を取り除かなくても、それは死んだ細胞を体から除去してくれるので体にとってよいことかもしれない。」

ℓ. 68 Mother nature creates ～. 参照。熱が老廃物を細胞という形で燃焼してくれるのである。

21. 「今や、すべての人が科学者になり、たとえば原子をその部分であるニュートリノへと分割できる時代が来た。」

科学者はすべてを分割して考えるという記載はあるが、すべての者がニュートリノへと分割できるとまでは書いていない。

22. 「普通の人々と異なり、科学者はたとえば左足の膝関節の重要性を忘れてしまうほど、些細なことに没頭することはない。」

ℓ. 79 I've seen specialists who've ～に反する。

23. 「科学者だけでなく、普通の人々までが全体より個々の部分の方が重要だと信じる傾向がある。」

ℓ. 83 the public becomes so engrossed with ～より、正しい。

24. 「筆者によると、殊に科学の舞台で私たちは木を見て森を見ずである。」

最終段落の趣旨に合致する。

- (4) 「統計学者の釣鐘型曲線」とは一般に正規分布を表すが、この文章の文脈では、個々のデータさえわかればあとは正規分布にあてはめてしまえばよいといった安易な考え方の象徴として使用されているように思われる。そもそも正規分布に従っているかど

うかが問題となる場合も多くあり、その際には全体がどのような曲線を描くのかを考
えなければ個々のデータの意義すら見出だせないのである。本文章で抗生物質は、魔
法の薬とされた薬を安易に投与する個々の症例を盲信すべきではなく、むしろ全体と
しての身体の働きに注意を向けることで抗生物質使用が誤りである可能性があること
を示すための具体例として引用されている。かような「個々のデータよりも全体像の
方が大切だ」という筆者のテーマに沿って過不足なく論述を展開できれば400字を埋
めることも容易だったと思われる。

全訳

最近あなたは薬箱を開けて、中に何が入っているか調べたことがあるだろうか。うがい薬、
練り歯磨き、防臭剤に加えて、多分、琥珀色のプラスチックの瓶が1つや2つ必ず見つかる
だろう。そして、普通は、このうちの1つには何らかの抗生物質が含まれている。ついで
にもう1つ尋ねるなら、あなたの家族の誰も丸1年医者に抗生物質を処方してもらわずに過
ごせた最後の時はいつだったか思い出せるだろうか。

近頃は医者には患者に、薬をまるで無害なキャンディーのように渡している。しかし、私が
ことさらに有害だと思うのは、抗生物質への強い選り好みなのだ。

私は体の自己治癒力を信じているが、だからと言って抗生物質を使用することにいつか
なる時も反対しているわけではない。まったくそうではないのだ。それどころか、私はそも
そもシンシナティで抗生物質を処方した最初の医者の中の1人である。1940年代の後半
のことだが、ニューヨークから来た生理学者が私に抗生物質を紹介してくれた。彼は抗生物
質の製造を考えていた地元の蒸留酒製造場を訪れていたのである。その時、私の患者の1人
が末期の病にかかっていたので、私は新薬のことで、その生理学者から新薬を試すボラン
ティアを探すように頼まれていることを話した。患者はボランティアになることに同意した
が、それは患者も私も、そうしなければおそらく死しかないと感じていたからだ。抗
生物質の効き目は素晴らしく、患者はまもなく体力を取り戻したのであった。

医者が病気の人を診断し、病気の人を治療するために薬を処方すると、患者はすぐに、そ
の薬は効くだろうと考える。つまり、「私の病気は重い」という患者のそれまでの考え方が
「私の病気は治る」という新しい考え方にとって代わられるのである。だから、これから治
癒の過程が始まるのだと患者が考えられるように手助けしてあげれば、回復の過程は実際に
始まるのである。

しかし、薬、特に抗生物質は必ずしもすべての病気への正しい答えではない。例えば、子
供の中耳炎（耳の痛み）の普通の治療法は2、3カ月にわたって抗生物質を処方することだ。
だが、これよりもっとよい治療法は医者の中耳炎を本当に引き起こしている原因を探り当
てることかもしれない。

ほとんどの医者が抗生物質を使用する理由は耳の感染は耳自体の内部だけで起こっている
と考えるからだ。しかし中耳炎の問題は、子供が生まれる時に実際には始まっていて、その
時点では直腸呼吸反射が首と肩の上部におけるリンパ液の排出に影響を与えているのだ。だ
から治療が必要なのは耳ではなく、体全体である。私の解決法は胸郭と骨盤をゆるめ、リン
パ液が体全体を流れるようにし、次にグリセリンを数滴それぞれの耳に落としてあげるこ
とだ。これで中耳炎はすっかり治ってしまうはずだ。

この治療法で私がかかなりの成功を取めてきたこと、また多くの医者がこんな治療法などあり得ないと考えていたことから、アリゾナ大学の関係者たちが私がこういった感染症の1つにかかっている子供を治療しているところをビデオで撮影することに決めたのである。そこで、数台のカメラが回っている間、私はいつものように患者の少年に治療を行った。④治療は大成功で、少年のかかりつけの小児科医ですら、6カ月が経過したのち、少年が治療後は中耳炎にかからなくなったことをやっと認めたのである。私が治療をする前は少年は平均して6週間に一度は中耳炎を繰り返していたのである。

長年にわたって私はこの治療法で何百人という子供たちを治療してきたが、子供たちのほとんどすべての者が薬の悪い影響を受けることなく回復したのである。

抗生物質の問題点は、それが不必要な場合にも使用されるということに限られるわけではない。私は、抗生物質は一般大衆が自分の健康を根本から心配しなくなったことの間接的な原因になっていると思っている。第二次世界大戦が終わった時、医者たちはこういった薬をたくさん持ってアメリカに戻ってきた。そして四六時中人々に、医学は万病に効く奇跡の薬をついに発明したと言いつらしていた。人々は医者言葉を信じ、自分の健康に以前ほど注意を払わなくなってしまった。万能薬が気軽に使え、いつでも手に入り、比較的安価なのだから、健康のことなど心配する必要などない、というわけだ。

ところが、体の中のバクテリアは抗生物質に対する抵抗性を獲得し続け、そのため今度は医者が抗生物質の投与量を増やさざるを得ないという事態になってしまった。現在の薬に対していまや耐性を持つようになっているある種の連鎖球菌の場合と同様に、抗生物質もやがてうまく効かなくなるだろう。だから化学者や生理学者たちは現在の薬にとって代わる新しい抗生物質を見つけ出そうと努力しているのだ。

抗生物質を大量に摂りすぎるとどんな種類の害が生じるのか誰にもわかっていないのに、抗生物質を気ままに利用することは、それだけの危険をおかす価値はあるのだろうか。こうした薬の影響を動物に投与して調べているある人が私にこう教えてくれた。ある抗生物質が体中をめぐる跡を追っていくと、その70%がどうなったかを突き止めることができたが、他の30%は長期的にもどこに行ってしまったのわからなかった、と。私自身は、症状をかなり長い間抑制しているように思えることからして、抗生物質は免疫組織を破壊している可能性があるのではないかと推測している。

抗生物質のこのような抑制的特徴は問題となる点でもある。あなたが肺炎のようなある種の感染症にかかった場合、肺炎が発病から衰退へと通常の過程を進むのに任せるというより、むしろ病気を抑制するために抗生物質が処方される。結果として一時的に病気が緩和されるものの、⑤病気がいつかまた関節炎のような別の形で再燃する可能性が高いのである。

この頃は、熱で倒れると、まっさきに言われることは熱を取り除きなさいということだ。私が整骨療法の大学に通っていた頃は正反対のことを言われた。つまり、発熱によって現れようとしているいっさいの症状に対し体が反応するように助けてやりなさいと言われたのだ。華氏103度(摂氏39.4度)までの熱なら体によい可能性がある。体は細胞という形をとって老廃物を絶えず燃焼している。それは細胞がいつも死ぬ途上にあるからだ。もしこれらの細胞がいつもの決まったやり方で体を離れない場合には、細胞は蓄積し始めることになるから、そこで母なる自然が熱を作り出して、死んだ細胞を焼却し、処理過程を回復するのであ

る。熱はまさしく体が必要としているものと言えるだろう。

可能な時はいつでも、抗生物質は避けなさい。華氏 103 度（摂氏 39.4 度）以下なら、どんな薬もふさわしくない。確かにこういった薬が体を生かしておくために必要な時はある。私自身、薬がなかったら今ここにはいないだろう。何百万人という他のアメリカ人だって同じだろう。しかしあなたが本当に病気を治したいなら、あなたの全存在に栄養を与えなければならぬし、◎そのための最もよい方法は鍼灸やハーブや整骨療法の手技といった生命力に働きかける代替療法にあるのだ。

今日、私たちは自らを科学的であると誇らしげに思っている世界に生きている。すべての事柄が、人に受け入れられるためには、科学によって立証されなければならない、また何かを証明するには、最初に物事を部分に分割し、次にそれらの部分の 1 つひとつを際限なく証明する過程に進んでいく。自分がしていることにあまりにも深入りすぎて、例えば、体には左ひざの関節以外のところもあることを忘れてしまった専門家を私は何人も見てきた。

こうした細分化の過程が続き、またメディアが特定の試みや実験、他のテストの結果を報道していくと、一般の人々も個々の部分に分割していくこういった研究のすべてに夢中になって、自分自身の内面にある全体性のことをも忘れてしまうのだ。

私たちは、医者も患者も、みんながその全体性に戻らなければならない。確かに、部分も重要ではあるが、全体像を把握していなければ個々の要素を理解しても何の役にも立たないだろう。この世界には統計学者の描く鐘形曲線では捉えきれないものがあるのだ。

【配点】 100 点

- (1) 48 点（各 2 点） (2) 18 点（各 6 点）
(3) ① 10 点 ② 5 点 ③ 5 点 (4) 14 点

【配点の目安】

- (2) 以下、表現上のミスや本文からの露骨な抜き書きについては各小問ごとに 2 点減点する。

A. 以下のように 2 つの区分を設定する。

① 医師が人々に抗生物質が万能薬であると言いふらした（4 点）

② そして、人々は医者言うことを信じ込んでしまったから（2 点）

because ～ など、理由を表す書き方になっていないもの - 2 点

B. 「体は細胞という形をとって老廃物を絶えず燃焼している」もしくは「死んだ細胞を焼却し、処理過程を回復する」という趣旨を正しい英文で記してあるものに 6 点を与える。

because ～ など、理由を表す書き方になっていないもの - 2 点

C. 「科学研究の一部のみに注目し全体像の把握を忘れてしまう」という趣旨を正しい英文で記してあるものに 6 点を与える。

- (3) ① 以下のように 4 つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は 1 件につき 1 点減点とし、区分を超えて減点はしない。

① the treatment was successful enough that even the boy's pediatrician eventually admitted（3 点）

successful enough that ～ の構造を正しく訳出できていないもの - 2 点

② , after six months had passed,（2 点）

admitted を修飾する副詞節として解釈できていないもの - 2点

- ③ that the child hadn't had an ear infection since (3点)

that ~ が admitted の目的語として解釈できていないもの - 2点

since (the child had got treatment) と解釈できていないもの - 1点

- ④ , although before, he had been averaging one every six weeks (2点)

he had been (infected) の構造が読み取れていないもの - 2点

- ⑤ the strong possibility exists that the illness may flare up again someday, in some other form, such as arthritis (5点)

the strong possibility と that the illness ~ as arthritis の同格関係を掴めていないもの - 3点

- ⑥ the best way you can do that is through alternative medicines that work with the life force, such as acupuncture or herbs or osteopathic manipulation (5点)

through alternative ~ osteopathic manipulation の through の訳出が不自然なもの - 2点

- (4) ①第二次世界大戦以降、医師も含め人々が抗生物質の有効性を盲信するようになった (3点)

- ②しかし、子供の中耳炎の治療法として安易に抗生物質を投与すべきでなく、リンパ液を循環させて直腸呼吸反射を正常化させれば抗生物質は不要である (3点)

- ③多くの医師はこの方法に疑念を抱いていたが、筆者が手掛けた何百人という子供はこのやり方で回復した (2点)

- ④また、肺炎のような感染症でも直ちに抗生物質を投与して発熱を抑制しようとする医師が多いが、むしろ体の発熱という自然の流れに任せて老廃物を燃焼、排除する方が必要な場合もある (2点)

- ⑤つまり、現在あらゆる要素へと還元してしまう科学研究を盲信する傾向が医師のみならず一般人にも存在するが、そのような個々の統計データに拘るのではなく、常に背後に潜む全体像を意識していくことが必要である (4点)

「全体像の把握が重要」ということにふれていないもの - 2点

- ①抗生物質への盲信→②③④抗生物質が必ずしもあらゆる病気に有効ではない→⑤我々は科学研究を盲信する傾向があるため、個々の事象の背後にある全体像の把握が必要、という構成に留意して①～⑤の観点から減点する。



会員番号		氏 名	
------	--	-----	--